

平成 21 年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子 ○学び つくりだす子 ○思いやり あふれる子 ○たくましく きたえる子				
経営の重点	自立の基礎を培う教育の推進 ・しっとりとしてそれでいて勢いのある学校 ・基礎学力を身に付けた子ども ・ふるさくに自信と誇りをもった子ども ・一人一人を大切にす教師		1 職員の総力を結集した運営組織の確立 2 人間性を磨き、教師としての専門性を高める研修の充実 3 学校の教育目標の具現に徹し、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進 4 豊かな心を培う活動と成就感を味わうことができる指導 5 家庭や地域社会との連携の強化		

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	1 <組織運営>教職員の特长を活かした校務分掌や主任制等、学校の組織が適切に構築され、機能しているか。	A	○学校全体が温かな雰囲気の中で生活できることがありがたい。 ○分掌を各自が意識し、適切に職務を果たした。 ○朝読書の時間に読んだ本を紹介する時間を設け、話す力が少しずつ高まってきている。 ○図書館祭りの際には、声を掛け進んでいるいろいろな分類の本を読ませた。 ○本校の伝統となっているアイガモ農法による米作りや生活科や総合的な学習の時間、ふれあい活動等を通して、祖父母・地域の方、区長、地域作り委員、見守り隊等様々な個人・団体・機関の援助・協力を得ることができた。 ○行事やフリー参観、通信やホームページ等で、学校の様子を積極的に家庭に知らせることに努めた。 ○図書館の本が充実していて、読書や調べ学習の指導を継続的に行うことができた。また、ボランティアの協力も得て、本の読み聞かせ等を積極的に取り入れることができた。	・教職員の特长を活かした組織構築し、行事の精選に努めてスリム化を図るなど、多忙感の解消等に取り組んでいく必要がある。 ・首から上のケガが多い。意識化を図ることが重要である。 ・本(物)をもっと大切に子どもにしていきたい。 ・学校公開日、授業参観など回数が多いという保護者の声がある反面、行事が多くて仕事に影響するという声もある。行事がある月はできるだけフリー参観を統合していく。 ・米作りに関わる負担が大きいため、5年担任だけでない役割分担をしていく。 ・さらに、読書が生活に位置付け指導に努める。	・校長の経営方針のもと、教職員一人一人が何をやるのかを具体的にまとめて取り組むたい。 ・危機管理については、親としたり大変気になる項目である。全職員で最善をつくす努力が不可欠である。十分できていないと評価した教職員の意識を聞き、改善したい。 ・仁木小学校の特色ある教育がよい。(米作り・川の学習など) ・図書館の本について、町予算や寄贈などもあり新しく本が入った。学校で読書指導に取り組んでいることをもっと知らせるとよい。本を読める環境を作ってやる必要がある。
	2 <特色ある学校>教職員の共通理解のもと、子どもたちや地域の実態に応じて特色ある教育課程が編成・実施されているか。	A			
	3 <危機管理>全教職員が、災害・事故等に対して常に危機意識をもち、子どもたちの安全確保を最優先にした環境を築く実践的な体制が確立されているか。	A			
	4 <開かれた学校>学校の教育方針や活動について、家庭や地域社会に積極的に情報提供するとともに、学校評価（自己評価・学校関係者評価）の結果を公表し、開かれた学校づくりに努めているか。	A			
	5 <連携・協力・啓発>保・小・中・（高）など学校間接続やPTA（保護者）、地域住民（団体）、行政機関等との情報交換や連絡調整及び家庭や地域社会に対して啓発活動を積極的に進めているか。	A			
	6 <情報・資金管理>各種文書や個人情報及び町費やPTA会費・各種積み立て等の資金が適切に管理されているか。	A			
	7 <図書館教育>学校図書館が利用しやすく整備され、図書の計画的利用や読書活動の推進に取り組んでいるか。	B			
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	8 <校内研修>校内研修（校内研究・現職研修等）の課題が適切に設定され、組織的、計画的に実施されているか。	A	○研究してきたことを、うまく発表できた。 ○町研究発表会に向けて「生活科」「総合的な学習の時間」「生活単元学習」を核として表現力の育成に取り組む、全教職員で成果を共有できた。 ○計画的・実践的にできている。	・個人課題を設定することへの位置付けが必要である。 ・教科研究やセンター研修などの機会を利用して研修を進める。 ・授業での効果的なICTの活用や情報モラルについて、さらに研修を進めていく。	
	9 <個人研修>一人一人が個人研修課題を設定し、校内外の研修に積極的に参加しているか。	B			
	10 <情報研修>「わかる授業」と校務のためのICTの効果的な活用及び情報モラル等について幅広く研修しているか。	B			
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。	11 <基礎・基本の定着>指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な内容を定着させる授業づくりに努めているか。	B	○生活に結び付いた国語科学習が身に付くように心がけ、日記指導で書く力を付けられるようにした。 ○落ち着いた学級経営がなされていた。 ○「話す・聞く」姿勢や学習規律の指導に全校を上げて取り組むことができた。	・少人数指導の利点を生かし、指導内容によって適した形態をとるようにする。 ・より個に応じた指導ができるように、少人数指導の形態を固定せず、弾力的な編成して運用をしていく。	・子どもが学ぶとき、助け合ったり教え合ったりして、人のかかわりがあるのがよい。道徳教育にもなる。
	12 <個に応じた指導>個の学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善して、きめ細かな指導がなされているか。	B			
	13 <学習集団>学習の規律・習慣が確立し、共に高め合うことができる学習集団が築かれているか。	B			
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	14 <指導体制>道徳教育推進教師を中心にして、全教師が分担、協力して指導していける体制ができているか。	B	○道徳コーナーをうまく活用し、日常の指導と道徳の授業を関連させた掲示物作りに積極的に取り組めた。 ○全校体制であいさつに取り組む、全校にあいさつの声や響き活気が出てきた。また、児童会の活動としても取り組み、向上が見られた。 ○あいさつについて、児童会が働きかけてくれた。	・学校や家庭・地域等と各機関が行っているが、それを個別に行うのではなく、一体化することで意識も高まっている。	・知っている子どもや親さんが明るくあいさつをしてくれる。よい雰囲気を感じる。 ・人前で話すことが大人になってもとても大切である。討論することも大切だと感じる。
	15 <全教育活動を通した道徳教育>道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にし、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画の工夫改善がなされているか。	B			
	16 <道徳の時間>資料選定や指導方法の工夫、道徳コーナーの設置、心のノートの有効活用等を通して、道徳の時間の充実に努めているか。	B			
	17 <心を育む体験活動>町の道徳実践の重点(あいさつ、美化、ボランティア)への取り組み等、家庭や地域社会と連携した豊かな心を育む体験活動を工夫しているか。	B			
【小学校外国語活動】 外国語を通じて、コミュニケーション能力の素地を養う	18 <指導計画・指導体制>一人一人にコミュニケーション能力の素地が養われるよう、指導目標と指導内容を明確にしているか。また、指導計画を作成しているか。	B	○英語活動について、ALTと短い時間であるが簡単な打ち合わせをすることで、授業のサポートがしやすくなった。 ○授業パターンができつつあるので、サポートもしやすくなった。	・できるだけ高度なことをねらわず、みんなが分かる楽しい授業が進められるとよい。 ・担任がT1として行う英語活動の実践を累積していくことが大切である。 ・子ども達が現在の英語活動をどう感じているかを確かむ必要がある。 ・日常生活の中で、英語を使う場面があるとよい。	
	19 <指導過程>学級担任が主体となり、ALTと協力して外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験する活動を設定したり、指導方法を工夫したりしているか。	A			
	20 <学習集団>お互いに認め合い、一人一人が安心してコミュニケーション活動に参加しているか。	B			

町の重点	評価の観点	評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【総合的な学習の時間の指導】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	21 <全体計画・指導計画>ねらいや内容、他教科との関連等を明確にし、小中7年間を見通した全体計画や指導計画が工夫改善されているか。	A	○町研究発表会に向けて、他教科との連携を図りながら取り組めた。 ○各学年で取り組むテーマを明確にして、いろいろな地域の人材や町の施設などに関わって体験や問題解決を行うことができ、町研究発表会の子どもの姿に結び付けられた。	・中学校の指導計画を把握し、小中の指導内容がより高まるよう指導する必要がある。 ・ポートフォリオ評価やプロジェクト学習の手法を今後研修した方がよい。 ・関わった人材や施設などを整理し、データベース化する。 ・モデルの姿を教師も子どももはつきりともって問題解決に取り組み、成長を意識できる学習にしていきたい。	・川の学習や障がいのある方との共生の学習はとてよい。広い心を持ち、心豊かになる。 ・総合の発表から、プレゼンの完成度が高い、低学年の子がよく話を聞いている。
	22 <体験的・問題解決的な活動>自ら学び、自ら考える力が高まるよう、体験的・問題解決的な学習活動を展開しているか。	A			
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	23 <自発・自治的な活動>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、自発的、自治的な活動を大切に、展開しているか。	A	○リーダーを中心に積極的な運動が展開された。 ○6年生が低学年に積極的に関わってくれた結果、縦割り活動の成果としてつながりがとても良い感じであった。 ○PDCAサイクルで活動を仕組み、やりっぱなしの活動にならないように心がけてきた。	・一人一人のよさや可能性をつかむ観点があるとよい。 ・児童が考える活動の中には、創意工夫・自治的な活動が弱い面も見られる。子どもの能力は指導と訓練によって伸びたり、身に付いたりするものである。教えて鍛えていく必要がある。	・リーダーとなる高学年の指導をお願いしたい。下学年の手下となる行動をしてほしい。
	24 <評価>個々の活動状況を見届け、一人一人のよさや可能性を認め、励ましているか。	B			
【生徒指導】 児童生徒一人一人に正対して共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。	25 <生徒指導（教育相談）体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、未然防止や早期発見、早期対応を図るための生徒指導体制（教育相談体制）が構築され、機能しているか。	B	○早めの対応ができていた。 ○仲間同士の思いやりの姿が見られ、成長を感じた。 ○町の生徒指導部会がよく機能していた。 ○学級において、よいところもつげや認め励まし等の場を位置付けるなど、所属感や充実感をもたせることができるように努めてきた。	・自分や人を大切にすることを継続的に指導していきたい。 ・教師もアンテナを高くし、常に児童間の暴力、暴言から、他の児童を守る努力をしなければいけない。両者への対応が必要であろう。 ・職員間では気にしていない児童への言葉や態度は、今後様々な方法を通して確認し合うべきである。 ・問題行動があった場合には、即座に保護者連絡をしているが、その後の経過についても連絡を入れていくとよい。 ・いじめがあったときには、学級全体で話し合うことも時には必要である。	・いじめについて、教師評価と保護者評価の開きが大きい。小さいことについては親は学校へは言わない。その結果表れる数値ではないだろうが。
	26 <学年・学級経営>子ども一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感を感じるような学年・学級づくりをしているか。	B			
	27 <生命尊重・倫理観・規範意識>命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう、繰り返し指導しているか。	A			
	28 <地域ぐるみの生徒指導>地域における児童生徒の健全育成に向けた取り組みなどを支援するとともに、小中や関係機関と連携し地域ぐるみの生徒指導を推進しているか。	B			
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	29 <進路指導体制>児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進するための進路指導体制が構築され、全体計画や年間指導計画が整備されているか。（共通）	B	○栽培活動や係活動などを通して、児童に対して勤労観を身に付ける取組を心がけた。 ○進んで栽培や勤労奉仕活動に参加できる児童が増えてきている。	・毎日の掃除や係・委員会活動等、人として当たり前のことを当たり前に取り組んでいる児童の姿を認め、価値付けていく。	
	30 <勤労観・職業観>望ましい勤労観や職業観が身に付くような体験活動を意図的・計画的に実施しているか。（共通）	A			
	31 <ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行っているか。（中学校）	A			
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	32 <保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善しているか。	A	○残さず食べられるように励まし、時間をかけて給食指導をするように心がけた。 ○年間を通して計画的に指導されている。 ○新型インフルエンザの影響を強く受けたが、結果的に一人一人の健康把握に努めることができた。	・自ら健康に過ごそうという態度の育成が必要である。 ・本校の体力作りのねらいをはっきりさせ、職員が朝活動でも教科体育でも意識しながら推進していく。 ・体力テストの結果を分析し、授業にも生かしていく。	・肥満傾向の子どもが多く、なっていないか心配する。体力作りとともに、食育指導を心がけてほしい。
	33 <運動推進>運動技能を身に付け、仲間と一緒に運動する楽しさや喜びを味わうことかできるように努めているか。	B			
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	34 <校内支援体制>校内委員会や特別支援教育コーディネーター・校内研修等、特別支援教育推進のための校内支援体制が整備され、機能しているか。	A	○交流学級の担任の配慮をもとに、温かな交流を進めることができた。	・特別な支援を必要とする子どもの理解と支援のあり方について研修を深める。 ・児童の支援計画を整備する。 ・全職員がもっと特別支援教育について研修して、多様な児童の指導について学ぶ必要がある。	
	35 <個別の支援>一人一人の特別な教育的ニーズに応じて、個別の指導計画や教育支援計画が作成されるとともに、指導内容や方法、教材教具の工夫に努めているか。	A			
	36 <交流及び共同学習>特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行っているか。	A			
【人権同和教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重するあたたかい人間関係を醸成する。	37 <人間関係の構築>互いのよさを認め合う、温かく思いやりのある人間関係を形成する指導を工夫しているか。	B	○2学期はよさをできるだけ褒めるように努めたら、子ども達でも仲間同士で褒めあう場面も見られた。 ○早期発見、早期対応ができていた。 ○「ここに言葉、ここに行動を増やそう」等、言葉遣いを重点的に取り組み、向上がみられた。	・思いやりなど、教育には「待つ」部分が多いことを、常に踏まえた指導が必要である。 ・「ちくちく言葉」「ここに言葉」の取り組みを行ったが、せっかくの掲示物であるので後の活用も考えていけるとよい。	
	38 <いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級作りに向けて全校が一丸となった取組を継続的に行っているか。	A			
【情報教育】 教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	39 <情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導に努めているか。	B	○計画的・実践的にできている。	・「分かる授業」「思考を高める授業」のため、さらに質の高い情報機器の活用方法について考えていく必要がある。 ・自己表現方法の一つとしてICTを積極的に取り入れていく。 ・携帯電話に関わる内容も含め、計画的に確実に情報モラルの指導を行う。	・福祉の学習から、健常者が温かい気持ちもてる。
	40 <情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行っているか。	B			
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる。	41 <ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進しているか。	A	○総合的な学習を中心によく推進されたし、地域の方も積極的に関わってもらえた。	・地域のひととのふれあい活動は重要な役割を持っているし、今後地域に対して学校を開放していくことが方針として示されている。教師の負担はあるが前向きに進めたい。	・学習の中で地域の方から意見をもらい、参考にするとよい。 ・川の学習で、魚がすめる川にしたいというふるさとを愛する気持ちをもたせたい。
	42 <国際交流>中国（小）やカナダ（中）との交流活動を充実させると共に、ALTを有効に活用した英語活動を推進しているか。	A			

※評価欄の記号 A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である